

子どもの「命」と「権利」そしてその「未来」を社会全体で守りまじよう



11月は、「児童虐待防止推進月間」です。

児童虐待に関する相談対応件数は増加傾向にあり、生命が奪われる重大な事件も後を絶たず、深刻な状況が続いています。

■町の子どもを取りまく相談件数(令和2年度)

児童虐待に関する相談 264件(前年度比 25件増加)

※滋賀県全体の相談 8,190件(前年度比326件増加)

■ひとり抱え込まないで気軽に相談を

「あの子もしかしら虐待を受けているかも」「子育てがしんどい子どもにあたってしまつ」「近くに子育てに悩んでいる人がいる」など、児童虐待を見たり、聞いたたり、当事者になってしまつた時は、ひとりで悩まないで、相談窓口へ気軽に相談してください。

【町への相談先】

- ・ 子ども支援課 ☎0748-52-6583
- ・ 保健センター ☎0748-52-6574
- ・ 学校教育課 ☎0748-52-6564

児童虐待とは、

- ・ 身体的虐待…殴る、蹴る、投げ飛ばすなど
- ・ 性的虐待…子どもへの性的行為、性的行為を見せるなど
- ・ ネグレクト…食事を与えない、ひどく不潔な環境など
- ・ 心理的虐待…暴言、無視、子どもの目前で家族などに暴力をふるつなど



【児童相談所虐待対応ダイヤル】

虐待かも…と思ったら **189** (24時間対応)

SDGsにつながる
取り組みを紹介

二酸化炭素削減に 取り組みよう



地球温暖化の要因となっている

二酸化炭素は年々増加し、令和12年には世界の平均気温が、産業革命前(19世紀後半)と比べておよそ1.5度も上昇すると予想されています。

滋賀県の取り組み

滋賀県では、令和元年度に「ジ」がCO₂ ネットゼロ「ムーブメント」キックオフ宣言をされました。

これは、県民や事業者など多様な主体と連携して、令和32年に二酸化炭素排出量を実質ゼロにしていることという取り組みです。賛同者は令和2年度末時点で、100事業所と4,838名にのぼり、日野町からも多数の団体・個人が賛同されています。

具体的な取り組みとしては、エコドライブや省エネ知識の普及啓発などです。

50年以上前に
「温暖化」影響を予測

ノーベル物理学賞を受賞された真鍋淑郎まなべしろうさんは、「二酸化炭素が増えれば地球の気温が上昇し、地球温暖化につながる」ということを世界に先駆けて発表され、こうした成果がもとになり、地球温暖化や気候変動の研究が進みました。

私たちにできること

- ・ 暖房は20度を目安に設定しましょう。
- ・ 長時間使わない家電製品は、コンセントを抜きましょう。
- ・ 家族が同じ部屋で団らんし、照明の利用を減らしましょう。
- ・ 駐車や長時間停車するときは、車のエンジンを切りましょう。

◆問い合わせ先

日野町エコライフ推進協議会事務局
住民課 生活環境交通担当 ☎0748-52-6578

地域おこし協力隊インターン

こんにちは。地域おこし協力隊インターンの宮根通（写真右）、吉海星来（写真中央）、吉井安代（写真左）です。

早いもので8月16日からスタートして1か月が経ちました（原稿執筆9月23日時点）。

現在私達は、長年空き家だった石原にある旧辰巳屋をシェアハウスにして暮らしています。元々酒屋さんをしていた店舗部分があるので、手始めに地域の方が、気軽に来てもらえるような空間をめざし、掃除や改修を進めています。庭の草取りを1日かけて行ったときには、朝から近



所の方々がお手伝いに来てくださいました。この1か月の間で、多くの方々に声をかけていただき、日々の作業自体が交流のきっかけとなりました。今後、皆さんと一緒にこの場所の活用を考えていきたいと思っています。

さらに、町内をまわり、日野町について知る中で、多様な自然とそれを背景とした歴史に彩られた地域であると感じました。その多様な魅力を伝えるため、現地を訪れて撮影活動や取材活動も行っています。

現在、旧辰巳屋は皆さんが集える場として開放しています。

ガレッジセール&ワークショップも企画しているので、ぜひお気軽にお越しください。

とき：11月7日（日）10時～16時
ところ：日野町石原1214番地

内容：雑貨や古着などの出店、外国の通貨を使った指輪作り、手足絵の具だらけにして巨大な布に自由にお絵描きできるワークショップ等

◆ヒノノイトナミに関する問い合わせ先
日野町石原1214番地 mail: info@hinononitonami.com
◆空き家・協力隊に関する問い合わせ先
企画振興課 ☎0748-5216552

青雲之志

～町長コラム～

日野町長 堀江 和博

先人の
教えを学ぶ

大窪にあります近江日野商人館（満田良順館長）が、10月3日（日）に創

立40周年を迎えました。商人館は六代目山中兵右衛門氏より先祖伝来の本宅を譲り受け、びわこ国体が開催された40年前の昭和56年に、森田町長によるテープカットで開館されました。

当初は地域の社会教育（生涯学習）の場として主に活用されていましたが、近年では観光客や日野商人の商法を学ぶ企業研修の場として盛んに活用され、年間1万人近くの方が来館されています。研修では大手企業のほかコロナ禍前には中国などの海外からも研修に来られていたようです。これは日野商人の商法が現代の経営にも大いに役立つことを示しています。

商人館に向くと多くの学びがあります。売手よし・買手よ

し・世間よしの「三方よし」の考え方は現代の「SDGs（持続可能な開発目標）」と同じであり、多店舗出店はコンビニエンスストアなどフランチャイズ経営の原型です。まさに不易流行の経営をしていたのが日野商人です。

令和となり、コロナ禍や人口減少など大きな時代のうねりの中で、多くの物事が変わろうとしています。しかし日野町には先人が残してくださった、時代に左右されない大切な教えがあります。満田館長はじめ多くの方々が資料を整理・保存し書籍にまとめていただき、商人館でわかりやすく展示いただいています。

商人館には「先人の姿」そのものがあります。今よりもっと厳しい時代に、幾多の困難に打ち勝ち、日本全国で商売をされ活躍をされたのが我々の先人です。その姿を見るたびに、多くの勇気をいただきます。こんな時代だからこそ、改めて先人の教えを学ぶことが大切ではないでしょうか。